

「イーレックス新潟（仮称）建設計画に係る環境影響評価方法書」に対する意見等への事業者の見解・対応及び事務局の見解

資料 2

No	環境要素等	意見等の内容	【事業者】見解・対応	【事務局】意見等の取扱いについて ○：答申書素案へ反映	
1	計画	現地説明会にて「バイオマス燃料」とは、ソルガムを主原料としたエンピツの太さほどのペレットであること、ベトナムの工場で製造されるものであることを説明いただき、ようやくどのようなものか判明しました。一方、環境影響評価方法書には、2.2.-12(15)において、8. バイオマス燃料粉じん・燃焼灰に関する事項に、ごく簡単な説明があるだけで、ソルガムを主原料としたペレットであることの記載は見当たりません。年間120万トンを毎日燃焼するものがどのようなものか、ペレットの原材料はどのような物質なのか、さらに現地（ベトナム）におけるペレットの製造工程も併せて詳細に示すべきと考えます。環境影響評価方法書には、何よりも優先してペレットについて記載すべきものであり、原料（燃料）の情報をきちんと開示した上で、関係自治体、周辺の住民の方々の理解を図るべきと考えます。	ペレットの原料にはソルガムや木材加工工場から発生する木質残渣を主原料とすることを考えています。ソルガムとはイネ科の単年植物であり、過酷な土地でも栽培でき生育スピードが早いのが特徴です。木質残渣ペレットの製造は、原料の木質残渣を破碎、乾燥、粉碎、造粒、冷却、袋詰め他というプロセスにする計画です。また、ソルガムペレットの製造は、原料とするソルガムの水分が高いため、破碎、圧搾(水分を落とす)、乾燥、粉碎、造粒、冷却、袋詰め他というプロセスにする計画です。なお、カリウムと塩素の含有量を落とすために必要に応じ水洗プロセスを追加します。 なお、上記を含め可能な範囲で詳細を準備書に反映します。	○	準備書においては、バイオマス燃料について、調達先における環境配慮の内容や製造・運搬方法などの詳細を具体的に記載すること。
2	計画	世界最大級（出力30万kW）のバイオマス発電所として環境影響評価方法書の第2章2.1の3p下段に4行程にバイオマス燃料を使用すること、また11p、2.2.6の2にバイオマス燃料について記載されておりますが、バイオマス燃料による発電所としてはバイオマス燃料の調達に関する記述が不十分ではないでしょうか。主とする輸入国はベトナムですか。その素材の種類は。日本政府としては違法伐採対策として2006年に林野庁がガイドライン策定、改正グリーン購入法施行がありますが、イーレックス社としてバイオバスの調達において伐採時、加工・流通、輸出において適法であるかのトレーサビリティの確保はどのようにされていますか。また自然環境・生物多様性についてどのように配慮されていますか。	上述の通り、ペレットの原料はソルガムや木質残渣をメインに考えており、主とする輸入国はベトナムです。既存資源を活用する木質残渣ペレットについては、原料調達・ペレット生産を自らが実施・管理する事により、認証品と同等のトレーサビリティを担保する予定です。また、新規燃料として開発を進めているソルガムペレットについては、原料のソルガムを、大幅な作物転換が生じないよう他作物が育たないような過酷な土地を中心に栽培していく予定であることから、自然環境や生物多様性に影響を与えないと考えています。		
3	計画	バイオマス発電所のエネルギー消費は新潟県内が中心となることを鑑み、発電に使われるバイオマス資源は新潟県、あるいは国内産のものを採用することを目指してほしいです。ベトナムでのバイオマス資源を利用するのであれば、運搬を含み問題があると考えます。あらゆる意味においても、ネイチャーポジティブな発電所となることを期待します。	県産材、国産材の使用につき検討を継続していきますが、消費予定の120万 t/年を賄うためには海外材を主に導入せざるを得ません。また、非FITでの運転を目指し、安価な燃料の海外での開発又は調達を目指していますので、それらを主に使うこととなります。また、現在の県産材の流通量には余裕はないと伺っており、更に新たな県産材（間伐材、剪定材、流木他）のバイオマスの燃料化には、散在している材料の集荷に森林等の事業関係者の連携システム構築が必要なこと、またかなりのコストがかかることが想定されます。弊社は森林を扱っているわけではないので、これ等を実施することは困難であり、県や地域主導の全体の流れの中で検討していきたいと存じます。		事業者の回答を以って了解としたい。
4	計画	新潟県内の荒れた山の森林も、バイオマスエネルギーの1つとして将来的に考えて欲しいと思います。少しでもいいので、新潟県の森林のためになって、コスト的に間に合う部分があれば、やはりそういうものを使っていただきたいです。			
5	計画	発電用燃料について、生産国現地の自然環境保護及び労働環境や労働者の待遇に配慮するフェアトレードの視点で調達していただきたいです。	フェアトレードの視点で調達を目指す所存です。		事業者の回答を以って了解としたい。
6	動物	希少種、絶滅危惧種でもあるエチゴモグラや、近接する別の事業の調査で存在が確認された希少種のチゴモズに関して、重点的な調査をお願いします。また、事業実施区域単体ではなく、周りの海岸林との接続ということで、重要なコリドーや、猛禽類等の採餌場所になっていることもあるので、その繋がりの部分も意識して調査していただきたいと思います。	チゴモズやエチゴモグラについては、文献で把握しています。注意深く調査します。コリドーなどについては、猛禽類調査では周囲を広く観察できるところで実施するため、猛禽類を中心とした生物の動静は分かると考えています。対象事業実施区域の周辺がゴルフ場の一部で営業中なためゴルフ場内の調査に制約を受け、どうしても調査しきれませんが、対象事業実施区域の周囲を含め文献等で補足して評価していきたいと考えています。	○	現地調査を適切に実施し、その結果重要な種の生息が確認された場合は、環境への影響が可能な範囲で回避・低減されるよう、必要な環境保全措置を検討すること。
7	騒音等	例えば騒音について、近隣住居に配慮して調査地点を配置するということが、どこにそれがあるのかが皆目読めませんでした。この事業の近隣の住戸がどのくらいのところに何戸分布しているかという情報は、基本的には記載されるべきだろうと思います。もう少し分かりやすく記載していただく必要があると考えます。	準備書にて記載方法を検討します。	○	当該事業の実施にあたっては、事業の影響を受ける関係地域の住民へ丁寧な説明を行うこと。また、準備書の作成にあたっては、調査・予測及び評価の過程について詳細に示し、文章や図の作成、用語の使用について工夫することで、わかりやすい図書となるよう留意すること。

No	環境要素等	意見等の内容	【事業者】見解・対応	【事務局】意見等の取扱いについて ○：答申書素案へ反映	
8	水質	これまで何度も指摘されていますが、本施設稼働後に取水口、放水口となる予定付近の海水のCODは、環境基準値を超えているだけでなく、東港周辺海域のCODレベルより高くなっています。このような新潟東港内において、施設稼働後に冷却水として新潟東港出口の底質に近い海水を毎秒14 t（毎時5万t）吸い上げて、さらにそこから1kmほどさかのぼった表層に温排水として同じ量だけ放出することは、流入河川から東港内に供給される栄養塩を含む成分の動きに大きな影響を与えることが考えられます。温排水のCODレベルが低くても、この水の動きが東港内のCODレベルの増加をもたらす可能性があることに配慮いただき、これ以上新潟東港内のCODレベルが増加しないよう、十分に調査・検討いただきたいと思います。	公共用水域の測定データを注視していきたいと思います。 今後、CODレベルが増加していく場合で、県からの協力依頼があった場合には、その内容について協議させていただき、可能な範囲で協力します。	○	温排水による海域の温度変化、取放水の流動に伴う海水の移動等を踏まえて適切に調査・予測及び評価を行い、環境への影響が可能な範囲で回避・低減されるよう、必要な環境保全措置を検討すること。
9	水質	背後には、福島潟からの排水路など内陸系からの水路が複数あり、そこを通して海域と繋がっているとしたら、3℃上昇の水泉ができてしまうことはかなりの影響があるのではないかと思います。逆に海洋深層水をもう少し海の側から取って、今の取水口に排出するという方が、はるかに影響が少ないのではないかと思います。また、その辺はぜひシミュレーションを詳しくしていただいて、3℃上昇の影響がないということを示していただきたいと思います。 また、3℃の上昇域があるのであれば、もう少し内陸の流域に対しても影響があるのではないかという懸念があるので、水質の調査ポイント、予測ポイントについて、もう少し内陸の部分の水系のところにまでとって欲しいです。内陸部分から流入する水系の中に、評価ポイントが必要だろうと思います。	温排水を評価項目に選定し、海水の温度上昇範囲のシミュレーションを実施します。 また、取水口、放水口の配置については、設置場所が護岸（船着き場以外の施設）に限定されること、可能な範囲で離隔距離を確保すること、近隣の東北電力の火力発電所から放水口を離すことを総合勘案して現在の配置としました。 従いまして、配置の見直しは考えておりません。 なお、温排水拡散の詳細な範囲については準備書にてシミュレーション結果をお示しします。 評価については、シミュレーション結果をもとに行うものでありますから、ご懸念のように内陸側に遡上するようであれば、それはシミュレーションの結果として示されます。 補足 複数案の検討について審査していただいた「配慮書」において、配置の複数案に係る意見（環境省、経産省、新潟県知事）は発出されていません。 なお、放水口の位置が100m以上移動すると、「方法書手続き」を再実施することとなります。		

【 関係課意見 】

No	環境要素等	意見等の内容	【事業者】見解・対応	【事務局】意見等の取扱いについて ○：市長意見案へ反映	
10	大気質	大気質の「調査、予測及び評価の手法」について周辺地域では現在バイオマス発電が予定されている。この影響についても評価に加える必要があるのではないか。	他事業者における環境保全措置等の詳細な内容が必要であります、公表されていないため、累積的影響の予測・評価は困難と考えています。	○	同時期に事業実施想定区域周辺で、他事業者によるバイオマス発電施設の建設や、火力発電所の更新が予定されているため、可能な限り情報収集等を行うことで、複合的な影響についての予測・評価を行うよう努めること。
11	廃棄物	廃棄物の発生の予測対象時期等について、発電所の運転が定常状態となり、産業廃棄物に係る環境影響が最大になる時期はいつか。	定期点検時を想定しています。		事業者の回答を以って了としたい。
12	廃棄物	発生した廃棄物の有効利用に関する工事計画や事業計画を、具体的に方法書内で示すこと。また、当該工事又は事業によって発生する廃棄物により、3.2-26(145)で示した、新潟県における産業廃棄物の処理量、50kmの範囲における各産業廃棄物処理施設の処理に与える影響についても評価すること。	具体的な産業廃棄物の種類と量は準備書段階で明らかにしていきます。 可能な限り有効利用することを検討しますが、産業廃棄物として処理せざるを得ない場合には、その処理先と十分協議していきたいと考えています。	○	事業に伴い発生する廃棄物は有効利用に努めるとともに、発生量や処理計画等について、準備書において具体的に示すこと。
13	廃棄物	3.2-26(145)表3.2-28について、粟島浦村に処理施設、最終処分場が無ければ、他自治体と同様に「0」を示すこと。	準備書にて粟島浦村を追記し「0」を反映します。		事業者の回答を以って了としたい。